

事業名称	太宰府市における空き家活用の見える化と地域に寄り添った活用手法の実証調査・研究
事業主体名	一般社団法人 太宰府市空家予防推進協議会
連携先	太宰府市
対象地域	太宰府市
事業概要	これまでの協議会での活用事例や繋がりのある活用希望団体等の見える化をすすめ、太宰府市内の空き家活用希望者側のニーズを顕在化し、空き家所有者等に空き家活用の訴求を行い、活用への意識を高める。 また、協議会自ら地域に寄り添った空き家活用の手法等の実証調査研究を行い、ノウハウを蓄積する。
事業の特徴	協議会でのこれまでの相談解決案件・ネットワークより太宰府市内の空き家活用状況・希望団体の見える化と協議会自ら地域に寄り添った活用の実践と手法の検討行う
成果	「くらしの相談窓口」の広告と広報チラシ 地域に寄り添った実践的な空き家活用の手法等にかかる調査研究レポート
成果の公表方法	太宰府市空家予防推進協議会 HP にて公表予定
今後の課題	空き家活用手法の事例の蓄積、太宰府市の環境整備の推進

1. 事業の背景と目的

(取組の背景)

太宰府市空家予防推進協議会では、平成30年度より3年間太宰府市と連携しながら、太宰府市民に向けて、市内の空き家の実態や住まいが空き家になることによるリスクなど、住まいを空き家にしないための意識啓発（空き家予防の推進）を積極的に行ってきた。

さらに、太宰府市役所内に「くらしの相談窓口」を設置し、3年間で120件を超える相談に対し、ワンストップで各専門家と連携しながら、特定空家候補も含む約60件を解決に導くことができた。残りの約60件についても継続して相談対応・フォローを行い、相談窓口の運営も補助金によらない独自の事業として継続している。

手放すことができない・手放したくない空き家、さらに自身や親族が活用の予定もなく、貸すことにも前向きでないケースも多い。ところが、これらの空き家所有者等に対して、協議会の相談員が寄り添い一緒に出口を模索していると、地域のためや公共的な活用方法等に対しては、「貸してもいい、場合によっては手放してもいい」というケースが少なからずあり、また活用希望者が実際にいて活用のイメージがつくなど、不安要素が薄らぐと、同様に前向きに動き出すケースが見受けられるようになった。

一方、太宰府市内において、福祉活動や生活支援等の事業拠点を探したり、スモールビジネスの拠点を探すも、諸条件により、「借りたいけど借りられない」「買いたいけど買えない」など、空き家活用のニーズがあるも、なかなかマッチングができていない実態があることもわかってきた。

また、相談案件の中で、太宰府市内の大学の閉鎖に伴い指定学生寮が空きアパートになり、そのままでは売却や賃貸は難しく、とってリフォームをして貸し出すには費用対効果が合わず、有効活用を希望されるも活用のハードルが高く悩まれていた相談者に対して、協議会構成員の会社が借り上げ転

貸借をし、住居用ではなく事業用としてDIYリフォームを認め現状回復の必要なしで貸し出すことを提案したところ、すぐに16室のうち8室が埋まった。

このように、空き家の相談体制が整備され、相談窓口としての認知度も向上したことにより、所有者側の課題や活用ニーズなどの情報も蓄積され、実際に相談を受ける中でさまざまな手法を提案する機会も増えてきた。多少工夫したとしても前に進まなかった案件が、自治体と密に連携している当協議会が間に入り手間をかけることで、不安が和らぐのか前に進むケースがあることも実感できるようになった。

（事業の目的）

空き家問題を解決に導くためには、空き家所有者等の意向や空き家自体の特性を考慮した活用方法を検討するなど所有者側からのアプローチも重要だが、地域やコミュニティといった観点から活用希望者側のニーズを顕在化し、空き家所有者等に訴求するアプローチも重要な視点だと考えられる。そこで本事業では、太宰府市における空き家の活用希望者の潜在ニーズを掘り起こし顕在化することで、空き家所有者の空き家活用への意識を高めるとともに、高齢者夫婦世帯や高齢者単独世帯など空き家予備軍に対しても、空き家になった場合の活用方法を事前に考える機会の創出を目的とする。

また、空き家の活用希望者の意向を実現するため、太宰府市と連携した市民から信頼のある当協議会が「くらしの相談窓口」においてワンストップ対応により、貸し手（売り手）・借り手（買い手）の間に立ち、転貸借や買取再販、DIY 賃貸、部分貸し、クラウドファンディング等の手法を用いることにより、よりマッチングの機会を創出することを目的とする。

さらに、これらの取り組みは、単なる空き家の活用にとどまらず、空き家の発生予防につながると同時に、太宰府市内での経済活動や福祉・健康増進活動の活性化を促進し、地域価値の向上に寄与するものであり、これらを仕組み化することにより、持続可能な地域に寄り添ったビジネスに発展させることを目的とする。

(2) 事業の取組詳細

①太宰府市における空き家活用のための環境整備

- ・平成30年度より当協議会が運営する「くらしの相談窓口」の相談・解決状況等を下記に示す。
- ・相談者に寄り添い、少しずつ前に進めていくことで解決へとつながる事例が多くあるため、一つの相談に対して長期間にわたって携わり、相談対応を継続している。

表2 相談状況

平成30年度	売買	賃借	法務相談	空家管理	その他	合計
解決	1	3	1	1	1	7
進行中	0	1	0	0	1	2
難航中	1	2	0	0	0	3
合計	2	6	1	1	2	12

令和元年度	売買	賃借	法務相談	空家管理	家財処分	その他	合計
解決	15	3	1	1	6	12	38
進行中	10	0	1	0	0	2	13
難航中	0	0	0	0	0	0	0
合計	25	3	2	1	6	14	51

令和2年度	売買	賃借	法務相談	空家管理	家財処分	その他	合計
解決	20	17	1	0	3	8	49
進行中	15	3	0	1	0	5	24
難航中	0	0	0	0	0	0	0
合計	35	20	1	1	3	13	73

令和3年度	売買	賃借	法務相談	空家管理	家財処分	その他	合計
解決	9	1	0	2	2	2	38
進行中	18	8	5	1	1	2	13
難航中	0	0	0	0	0	0	0
合計	27	9	5	3	3	4	51(※)

※令和3年度については、2022年1月時点の合計

①—A) 空き家の活用状況の見える化

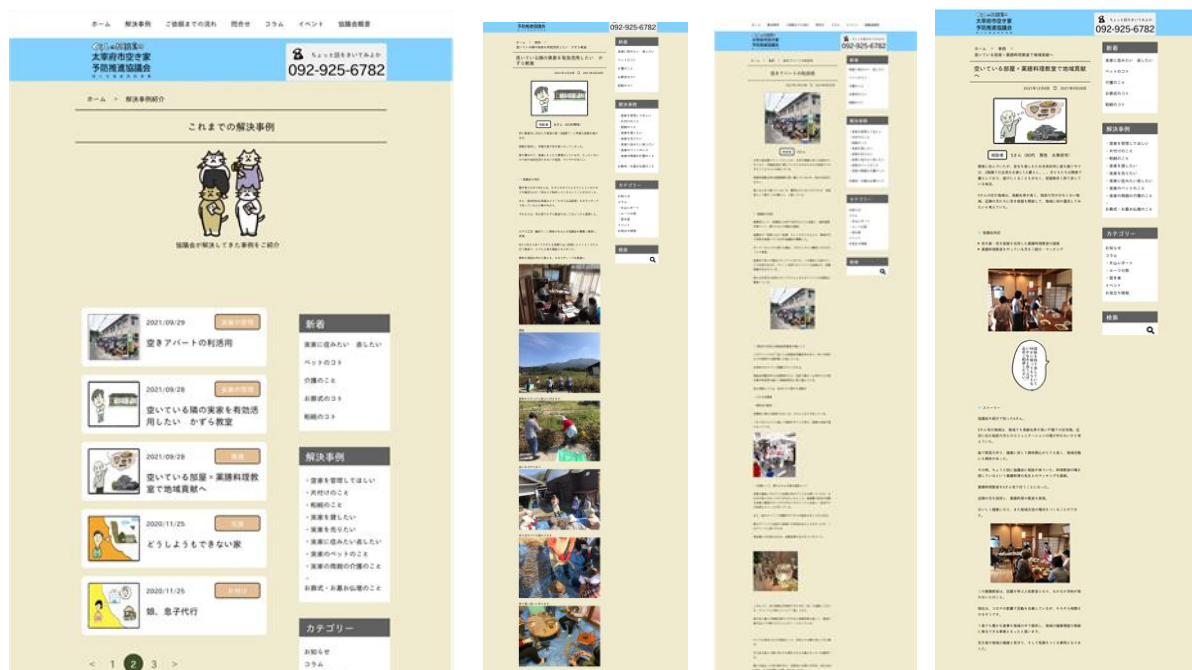
1) 空き家活用事例の整理・検証

・表2の中で、解決した件数のうち、相談対応で終わったものを除いて、空き家の解消に至った案件、空き家の解消まで進んだケースをまとめ、42件のうち「売る」32件「貸す」8件「住む」2件であった。

2) HPに空き家活用事例を公開

・前述の空き家活用の中から情報公開が可能な解決支援した事例をまとめ、協議会のHPにて公開した。

図2 協議会HP内活用事例



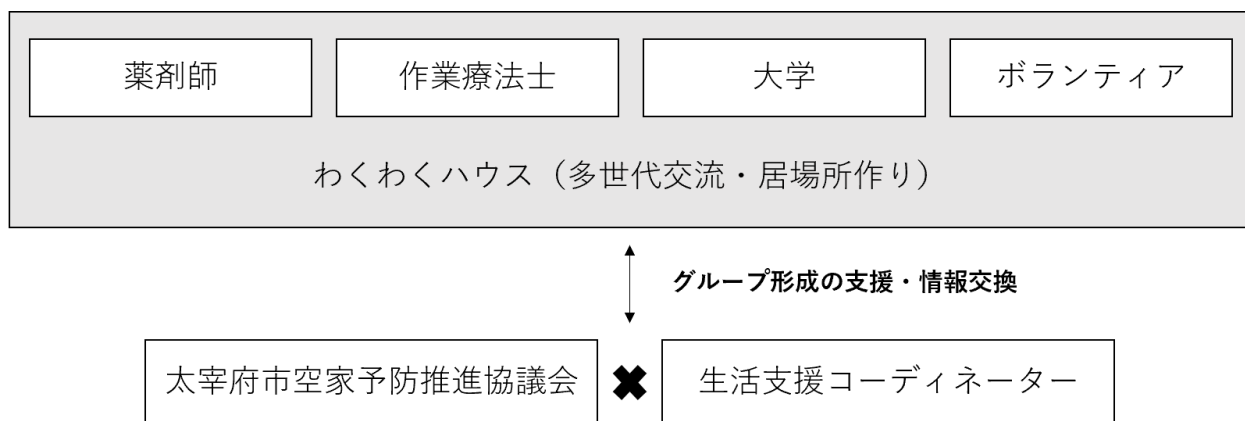
太宰府市空家予防推進協議会HP <https://dazaifu-akiya.com>

①—B) 空き家の活用を希望する団体や活動等が見える化

1) 活用を希望する団体のグループ化

・太宰府市内の福祉関係者や医療関係者、NPO 団体、大学など、空き家を活用して多世代の居場所づくりや子ども食堂の場所などを希望する個人・団体を地域コーディネーターと協力し、「わくわくハウス」（多世代交流・居場所作り）というグループ形成した。

図3 グループ形成の支援



2) 各団体の活動に関する広報活動

- ・異世代交流の居場所作りを目指す団体のイベントチラシでの支援を行った。
チラシをもとに、太宰府市高齢者支援課、養護教諭、民生委員など福祉のネットワークを持つ団体へ訴求し集客イベントの開催へとつながった。
- ・それぞれの活動の聞き取りし、団体に関わる意味や各個人の活動内容などいろんな角度から掘り下げて、協議会 HP 内やインターネットラジオ (計 7 回) で発信し、空き家所有者等への共感を促した。
- ・空きアパートでのイベント (マルシェなど) を開催し、アパート内の住人全員参加し、町内の飲食店からの協力も得つつ、地域への空き家活用の発信をおこなった。

図4 各団体の活動に関する広報



団体の活動広報

インターネットラジオによる発信

イベントの様子

Spotify によるラジオ URL

<https://open.spotify.com/show/1lizm00jjTEly8uugrTA1z?si=Pai91lfFqSSWUwXc9THFsZg>



活動内容を協会 HP に掲載

3) 空き家活用の企画検討会議の開催

- ・空き家の活用に向けて、空き家所有者等が「貸してもいい」となるには、どのような条件や内容が必要かなどについて検討した。
- ・また、実際に空き家を活用した場合の想定をするために、イベント形式でプレテストを行い、関心の高い自治会・民生委員、学校関係者などにも参加してもらい、活用の実効性も含めブラッシュアップを重ねた。

●話し合い内容

(空き家所有者等への提示案)

- ・活用希望団体の個々の予定により週1の開催調整も難しいため、月1度あれば予定が合わせられる状況にあるので、空き家所有者等から月5,000円×12か月＝60,000円（固定資産税くらいの金額）で貸していただき、風通しを含めた活動運営を希望している。

(集客・収益性・実現可能性)

- ・福祉的な活用をすすめて、無料での参加の呼びかけはしやすいが、参加費有料となると出てきてほしい人が出てこなくなる可能性もある。認知度を高めることを目的にワンコイン（500円）での公開講座と有料（月額3,000円）での各専門家による個別プログラムの実践を分けて収益性を高める。
- ・現体制を考慮し、10名程度の公開講座（月1回2時間程度）、3名程度の個別プログラム（月1回4.5時間程度）での対応する。
- ・高齢者の参加のしやすい午前中に開催することで認知度を高める。
- ・高齢の参加者の記憶しやすい「毎月第〇曜日の〇時」と決めて定期開催をする必要がある。

(プレテストの参加者側からの意見)

プレテストの参加者にアンケート回答を実施し、対応の検討をおこなった。

表3 アンケート概要

参加者からの意見	対応の検討
ふらっと立ち寄れる場所（いつでも行ける場所）になってほしい	常設の場所の確保の必要性がある。
お年寄りと子どもたちとの触れ合いの場となること願っています。	お年寄りと子どもたちのマッチングを目指してネットワークを広げる必要がある。
公共の施設での活動ではなく家の空間（木のぬくもり）だからほっとする。	空き家の需要が分かったため空き家所有者等に伝える必要がある。

写真1 オンライン会議風景



写真2 意見交換の様子



①-C) 空き家活用のニーズを空き家所有者等へ届ける

1) セミナー・相談会の開催

・セミナー・相談会では、住まいを空き家にしないために取り組むべきこと（例：相続・エンディングノート・生前整理など）の情報提供や、住まいの将来を考えて空き家の活用方法の情報提供、住まいに関する悩みごとや困りごとの把握を目的に、専門家と共に月1回開催した。

・毎回相談を受けた際に、空き家の解決出口の一つとして、これまで紹介してこなかった空き家活用のニーズをお伝えしたことで、前向きに活用について考えてもらうきっかけとなり、空き家の活用について家族間での調整に入っている案件がでてきた。

・活用について前向きに捉えて、次に進もうとする相談者の方に対して、次年度以降も継続して対応をすることで空き家問題解決をすすめる。

写真3 相談会の様子



表4 相談会概要

日程	相談者	セミナー・相談内容
2021/07/14	2名	家族の老健施設費用、売却
2021/08/11	2名	片付け、売却、相続
2021/09/08	3名	被保佐人の所有分移転
2021/10/13	1名	将来相続する親族の空き家
2021/11/17	2名	家族信託、
2021/12/08	2名	相続対策による土地活用
2022/01/13	1名	実家の福祉的利用
2022/02/09	1名	相続放棄による親族相続

2) 空き家サミットの開催

・昨年度はコロナ感染拡大の影響で、無観客での開催であったが、今年度は自治会を中心に呼びかけ、太宰府市内で空き家の活用や地域単位での見守り体制を含めた、「第3回空き家サミット」を2022年1月28日に太宰府館で開催した。

・太宰府市内での空き家活用の事例や地域包括ケアシステムの見守り体制を伝えるとともに、自治協議会の方に登壇いただき、地域一丸となって見守り体制、居場所作りの意識啓発の場とした。

・コロナ禍の中であったため、参加したかったが高齢者であるため直前キャンセルの自治会もあったが、6自治会から参加いただき、満足度は高かった。参加できなかった自治会含め動画撮影したものをyoutube等での発信を行い、適時意識啓発を継続する。

・参加者からは、自分たちの住む地域で取り組んでみたいので、まずはセミナー・講座から始めたいという声があり、協議会に協力依頼を受けた。

・空き家活用を実践している学生や空き家の活用を希望する団体をサポートしている生活支援コーディネーターらの話に、自治会の代表や参加者である地域住民らから、「地域のためになる色々な活動をしていることが分かり感心した」「空き家問題をさまざまな角度から解決する事例が興味深かった」などの意見が出て、自治会や地域の方々に空き家活用のニーズを伝えるいい機会となった。

・一方、「各自治会の実情をもっと聞きたい」「自治会間での情報交換が必要」などの意見もあり、次回の空き家サミットでは、自治会に焦点を当て、市内44自治会の空き家に対する取り組みについて発表・共有する場を設けることも検討したい。

【サミットに対する主な感想】

- ・地域包括ケアシステム なかなかいいシステムと思うが、自治会単位でのやり方が重要。外に出ていく方が少ない。出たいなあと思わせるアプローチが必要。
- ・各自治会長の実情を聞きたかった。情報交換が必要。
- ・色々な活動されていることが分かり感心いたしました。
- 又、どこに相談すればよいかなどもわかりました。

- ・私はシルバー人材の物ですが、シルバーでもできることがあると思いますので改めて相談に行きたいと思います。
- ・空き家問題をいろんな角度から解決する事例が興味深かった。

写真4 サミットの様子



写真5 サミットの様子



空き家サミットの概要

日時	2022年1月28日 10:30~12:00
場所	太宰府館
登壇者 敬称略	<ul style="list-style-type: none"> ●株式会社ホームブレイン 代表取締役 井勢敦史 (ファシリテーター) ●太宰府市 都市整備部 都市計画課 都市計画係 坂口 亜樹 ●太宰府市社会福祉協議会 生活支援担当係長 永田 知美 ●太宰府市 緑台区 自治会長 三輪 貴代 ●筑紫女学園大学 現代社会学部 現代社会学科学生 増田 七海 ●太宰府市空家予防推進協議会 理事 淀川 洋子
主な 議論テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・太宰府市における空き家の現状と課題 ・大学の空き家利活用の取り組み (実例) ・自治会の地域の見守り体制について ・地域包括ケアシステムと太宰府市内の居場所作りの活用希望団体の取り組み

〈空き家サミット youtube のURL〉 <https://youtu.be/BLV9jZvFYKQ>

①-D) 「くらしの相談窓口」の運営

(運営概要)

写真6 Web相談対応の様子



- ・3年間継続している「くらしの相談窓口」について、コロナ禍の中でも相談体制を継続するため、web相談を含めた相談体制を実施した。
- ・月～金（9時～17時）を基本とし、それ以外は担当電話に転送する体制で対応実施した。
- ・相談者に寄り添い、解決へと導くことで信頼関係が生まれ、別の親族関係の悩み事を聞いてほしいなど抱えている他の悩みを相談してもらえる案件が増えてきた。
- ・相談の内容が複雑なもの、専門性の高いもの（相続など）が増えてきたため、ヒアリングの手順や解決手法を含めた更なるスキルアップの勉強会を11月12日に実施した。
- ・また、「くらしの相談窓口」の具体的な対応内容や流れを含めた認知度向上を目指して、市役所内で、市の専用封筒への広告掲載、都市計画課に「くらしの相談窓口」のチラシを設置した。

写真7 行政と月一の会議の様子



- ・月に一度、連携先の行政担当者にも会議に参加していただき、「くらしの相談窓口」への相談案件の情報や進捗状況について報告や情報交換を続けている。それによって相談案件をワンストップで対応する団体と行政が連携することによって、行政が解決できない案件をスムーズに解決へと導くことが可能となり、解決案件がより多いと考えられる。

(他市から依頼を受けたオンライン相談での対応について)

常設している窓口のオンライン相談が増えてきたこともあり、福岡県内の他市から web 相談の依頼があり、行政から受け取った相談内容を把握して、事前に現調を行ったうえで、協議会の相談員が事務所にいながら他市の空き家相談を受けることになった。

相談者は家からのオンラインで繋ぐか、当該市役所の会議室等からのオンラインで繋ぐかで行政職員同席のもと協議会と相談会を実施した、

写真 8 他市からの依頼 相談



表 5 相談状況

日付	相談件数
2021年09月	4件
2021年10月	1件
2021年11月	2件
2021年12月	5件
2022年01月	2件

(相談員向けの勉強会)

- ・相談窓口を継続する中で、相談員のスキルアップを毎年勉強会を実施している。

表 6 相談員向けの勉強会概要

日付	2021年11月12日	時間	14:00~16:00
講師	株式会社ホームブレイン 井勢 敦史	受講者	太宰府市空家予防推進協議会 メンバー
勉強会	・宅地建物取引業法のガイドライン改正のポイント ・家族信託について ・相談案件の類似解決手法 ・各専門家との連携の際の注意点 など		

写真 9 相談員向け勉強会



②-A) 太宰府市空き家予防推進協議会による空き家活用の実践

- ・協議会がサブリースを行い、所有者の意向に沿った活用希望者を地域のネットワークを通じて集め、契約・活用をおこなった。
- ・空き家の解決出口として、「住む」「貸す」ことが不可能であり、「売る」意思はない所有者に対して、定借による活用を提案した。
- ・空き部屋の多い独居の高齢者宅にて、空き部屋を活用して地域に還元したいという想いを実現するために、協議会が活用希望者とのマッチングを行い、実践した。
- ・諸条件により月1で借りて活動したいというニーズに応えるために、日替わりの賃貸利用スペースの提供を行った、
- ・オーナーと協議会がマスターリースの段階で転貸 OK の契約し、協議会と大学生（借主：大学教授）間でサブリース契約をし、借主による原状回復の必要のないことを了解のもと、学生自ら DIY リノベーションをした。

②-B) 地域に寄り添った実践的な空き家の活用手法の検討

（太宰府市内での異世代ホームシェアの可能性について）

他地域においてホームシェアを取り入れてる取り組みを参考に、太宰府市内でも高齢者が自宅の空き室を大学生に低廉な居住費負担で提供し、気の合う大学生と同居・交流する方法がないか検討した。

自宅の空き室を提供してもいい高齢者との接点をどう作っていくかという課題がある。高齢者の個人情報や無断では教えてもらうことはできないので、マッチングの供給の確保をどうすすめていくかが課題である。

なにか問題が起きた場合の責任の所在を明らかにしておく必要がある。最初に詰めておく課題を双方ともにクリアしていけば、実現可能性は高い。

（活用のためのクラウドファンディングについて）

空き家を活用してまちづくり系の事業を太宰府市内の学生が進めていくために、クラウドファンディングを用いる方法を大正大学での取り組みや campfirecommunityなどを参考に検討した。また、協議会として活用のツールとしてクラウドファンディングを使って何かできないか検討した。

寄付型のクラウドファンディングや活用のいろんな企画を一つのコミュニティを作り上げて進める計画となった。

（サブリースの可能性の深掘り）

実践編の中で取り組んだ、協議会が借り上げて転貸する出口について可能性を秘めていることが確認できたので、サブリースについて深掘りして検討した。

一括で借り上げて転貸する場合の出口について、今年度の実践したこと以外で「空き家等所有者自ら DIY して貸す」「サブリースではなく借り手自ら DIY して借りる」などの提案を次年度協議会からおこない、活用を促す計画となった。

③進捗確認や取りまとめに向けた定例会議の開催

協議会が発足してから継続して協議会の関係者と太宰府市都市計画課が毎月集まり、今年度の補助事業の進捗確認等を行うミーティングを実施した。（計8回）主に各取り組みの進捗状況、スケジュール確認が議題のテーマとなった。実施概要は以下の通りである。

表7 定例会議の概要

回数・日付	次第	概略
第1回 07/20	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の補助事業を含めた全体スケジュールの確認 相談窓口の進捗状況報告 協議会への講演依頼状況について 	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業で申請した内容の確認し、具体的なスケジュールや役割分担について整理
第2回 08/03	<ul style="list-style-type: none"> 2021年7月の動向報告（活用希望団体の支援状況、相談窓口の進捗状況など） 8月以降の予定（利活用団体イベント開催に向けて、市外での講演など） 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家活用団体のグループ形成の検討 活用希望団体、協議会の広報関係とりまとめ
第3回 09/13	<ul style="list-style-type: none"> 2021年8月の動向報告（活用希望団体の支援状況、相談窓口の進捗状況、福岡県内の他市町村からの講演依頼状況など） 9月以降の予定（事業方向性、市外での講演など） 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン相談会状況 協議会の認知度向上
第4回 10/08	<ul style="list-style-type: none"> 2021年9月の動向報告（活用希望団体の支援状況、相談窓口の進捗状況など） 10月以降の予定（福岡県内の他市町村からの講演依頼、福岡県からのヒアリングなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 他団体との横連携について
第5回 11/11	<ul style="list-style-type: none"> 2021年10月の動向報告（活用希望団体の支援状況、相談窓口の進捗状況など） 11月以降の予定（太宰府市協定に向けて、空き家サミット内容、段取りなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家活用の実践状況等、補助事業中間状況確認
第6回 12/06	<ul style="list-style-type: none"> 2021年11月の動向報告（活用希望団体の支援状況、相談窓口の進捗状況など） 12月以降の予定（危険空家の対応について、太宰府市との協定式についてなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家活用希望団体のグループ発展状況 空き家サミット集客・後援・登壇者等報告
第7回 01/17	<ul style="list-style-type: none"> 2021年12月の動向報告（活用希望団体の支援状況、相談窓口の進捗状況など） 1月以降の予定（空き家サミット最終調整、次年度継続講演依頼についてなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 成果報告に向けての発表内容、成果物などの確認・整理 空き家サミットに向けた最終確認
第8回 02/07	<ul style="list-style-type: none"> 2021年1月の動向報告（活用希望団体の支援状況、相談窓口の進捗状況など） 2月以降の予定（福岡県内の他市町村からの依頼関係など） 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けての取り組みの展開について検討 3月以降のスケジュールの調整の実施

(3) 成果

①太宰府市における空き家活用のための環境整備

A) 空き家の活用状況の見える化

- ・空き家活用の事例や活用希望団体の見える化が進み、空き家所有者等への訴求する体制が整った。

B) 空き家の活用を希望する団体の見える化

- ・活用希望者のネットワークが広がり、私たちも活動できる場所を探しているという依頼が増えた。

- ・高齢者支援課や養護教諭など、福祉関係機関からオブザーバーとして参加希望者が増え、適時参加いただき、ネットワークを広げ、今後の居場所作りにおける参加者への働きかけの進めることができた。

- ・各ネットワークから空き家活用の情報が広がり、他団体同士での理念共有や協働のグループ形成の支援をすることができた。

C) 空き家活用のニーズを空き家所有者等に伝える

- ・セミナー相談会、空き家サミットを通じて、空き家活用のニーズを空き家所有者等へ紹介することができた。

- ・地域に点在する空き家、これから増える独居の高齢者について地域での見守り体制や、活用を促していけばいいか、など一緒に考えたいちうきっかけが生まれた。

- ・これまで協議会が取り組んできたセミナー相談会を自治会に出向き、活用希望団体を交えながら各地域での活用や見守り体制のモデルを作り上げていく。

D) 「くらし相談窓口」の運営

- ・継続した相談窓口の運営と認知度の向上が図られ、解決のノウハウがたまった。

- ・相談者との対面、web での相談を常態化することにより、物件所有者の家族などとも遠隔で対応をリアルタイムで進めることができた。

②地域に寄り添った実践的な空き家活用の手法の実証調査研究

- ・サブリース、定借、空き部屋の活用、日替わり賃貸、DIY リノベを実施できた。

- ・いろんな提案場面あることとを実践において感じた。実践することを意識すると提案の幅が広がった。

- ・活用手法の知見を深めることができ、太宰府市内で取り組めるものを検討できた。

3. 評価と課題

①太宰府市における空き家活用のための環境整備

- ・活用の情報提供可能な内容・種類について初年度という事もあり多くはないが、協議会の取り組みや活用について興味を示している団体等が増えてきているので、各団体とのやりとりを継続して進め、整理検証し適時発信を行う。

- ・活用内容の目的に合わせたグループの細分化が見込まれるので、グループの特徴や意向をく

み取り、空き家所有者等へ分かりやすく説明できるように整理して紹介する必要がある。

- ・今年度の取り組みを通じて、太宰府市内の活用希望する団体や個人との接点が増えたことで、空き家所有者への活用提案内容は充実したものになった。活用の情報提供と地域のネットワーク拡大による相乗効果で、活用希望する団体や個人との接点が増え続けているため、各団体等の情報を随時集約し、空き家所有者等への発信を継続する必要がある。

- ・太宰府市外からの大学や福祉団体から協議会の取り組みについて共感し、うちでもやってみたい、一緒に何かやりたいという要望があるため、活用の横展開を行っていく。

- ・太宰府市と連携している当団体の相談窓口運営により、相談者から安心・信頼を得ている。相談体制を維持継続し自走するために、人件費はもちろん物件調査に必要な書類等の費用をどこで確保するかが課題として残った。

- ・当協議会の地域に寄り添った取り組みが他の市町村から注目され、他市の予算でオンライン相談の活動が始まり、次年度も継続する予定である。相談依頼が増えることで、相談員のスキルアップが更に求められるとともに、それぞれの地域で相談業務を受けられる人材や団体の体制を整える必要がある。

- ・これまで福岡県からの依頼で、福岡県内の市町村の役場又は公共施設で、予防啓発セミナーおこなってきた。次年度も継続して依頼を受けている中、これまで当協議会が太宰府市内で行ってきた自治会単位でのセミナー開催を、県内市町村の自治会に調整を図り進めていく予定である。

②地域に寄り添った実践的な空き家活用の手法の実証調査研究

- ・事業期間の中での活用の実践の数は限られたが、バラエティに富んだ活用実践ができた。

- ・協議会の実践と活用手法の検討を重ねたことで、地域に寄り添った活用の可能性が広がったので、次年度以降に、太宰府市内の大学、自治会、福祉団体を巻き込んだ事業展開を進める。

- ・太宰府市内の活用実践の中で、協議会が間に入ることによって前に進むケースが分かり、今後の提案の材料となった。

- ・空き家所有者等への活用提案の幅が広がり説得力が増し、解決へと進んでいる。

4. 今後の展開

今年度は太宰府市内での活用希望者側の視点に着目し、活用状況や活用希望者の情報などを整理した。また本年度事業の取り組みにより、空き家所有者等に対して提案の幅が広がり、より具体的な活用の提案や意識啓発をするところまで進めることができたので、今年度の取り組みを次年度も継続していきたい。

福岡県内の他市町村からのオンライン相談会依頼を、うちでもやってみたいという市町村に対して、オンライン相談体制の拡充を目指す。

■事業主体概要・担当者名			
設立時期	平成 30 年 6 月 22 日		
代表者名	片山 順一		
連絡先担当者名	片山 順一		
連絡先	住所	〒818-0104	福岡県太宰府市通古賀 5-2-3
	電話	事務局：092-929-2525　くらしの相談窓口：092-925-6782	
ホームページ	https://dazai-fu-akiya.com/		